

イベント、校内活動、ハイブリッド学習 生徒会活動

イギリス・立教英國学院

I 前 提

学校環境

小学部（第5学年・第6学年）、中学部、高等部が設置（男女共学・全日制普通科） 約180名

日本の文部科学省から国内の学校と同等であると認定を受けた最初の私立在外教育施設である。卒業・進学にあたっては日本国内の学校と同じ資格を有する。またイギリスの文部科学省からも私立学校として認定されている。児童生徒は全員寄宿寮で生活している。

2020年の年明けからコロナ禍の影響を予測し、オンライン授業でも滞りなく児童生徒が必要とする授業・学習を進められるよう、3月からICT環境の整備を始めた。地元のICT専門業者と契約し、Google G-Suiteの学校用アカウントを全児童生徒に開設することから始めた。ハード面では校内全域でインターネット接続できるWi-Fi環境を整備、全ホームルーム教室に大型液晶インタラクティブボードを設置し、更に2学期に多くの児童生徒が帰寮した時点で全校児童生徒が一人一台のChromebookを持って授業・日常生活で活用できる環境を整えた。

このICT環境は、本校の持ち味でもある「大家族体験」や「国際交流」に大いに役立ったばかりか、児童生徒達自身がこの環境を活かして自主的に創造的活動を始めた事は大きな成果であった。教職員も、ICT環境を活かした授業形態の工夫やクラス経営・校務・事務作業のICT化を進めると共に、ICTに関する情報交換の場を設けるなど、学校全体で新しい教育への模索が始まっている。

課題と目標

<課題及び目標>

オンラインの授業・学習だけでは学校活動の物足りなさを感じる児童生徒たちが自主的に生徒会活動を再開できるように生徒会メンバーを中心にオンラインでできることを模索した。

2 実践の内容

活用したICTツール

- » Chromebook
- » Zoom
- » G-Suite

具体的な活用方法

安全面での考慮や技術的な面での協力を教師側でしつつ、企画・運営自体は児童生徒自らが行うことで、予想外の勢いで児童生徒達の活動が始まった。

① 4月に入学した新入生のための自己紹介企画

② 音楽演奏を通して繋がるオンラインコンサート

③ コロナ禍で社会の動きに意識が向いたことで企画された社会貢献プロジェクト

ICT機器などを活用して実施することができたことで以下の活動につなげることができた。

④ Webオープンデイ

イギリス人や保護者を大勢招いて行っていた「オープンデイ（学園祭）」をオンライン上で公開するという企画だった。学校全体の取り組みであるため、学年を超えた話し合いや準備も必要であった。これには夏休み中から整備を始めた校内のICT環境が大いに役立った。各児童生徒はこの2学期より一人一台のChromebookをもって授業に参加していたため、このオープンデイ活動中もChromebookを使い学年を超えて繋がることが出来た。校内は全域でWi-Fiが利用できる環境が整っていたため、教室だけでなく寮にもどってからの自由時間での活動にも支障はなかった。また、今回のオープンデイでは、生徒会とオープンデイ実行委員が地元のイギリス人の方たちのグループと意見交換しながら進める企画もあり、コロナ禍におけるICT環境が新たな可能性を示す形となった。このような状況下にあっても地元の方々と交流できるという可能性を児童生徒達自身が実感できたことも貴重であった。



開会式

- » 生徒会・Open Day 2020 実行委員会 共同企画動画『世界の明日のために』
- » 地元の環境保護団体の方々とミーティング
- » 毎年恒例、各クラスの掛け声 など

<オープンディー公開ホームページ>

立教英國学院

<https://rikkyo-school-in-england-open-day-2020-japanese-1.jimdosite.com/>

3 成 果

ICTツールを活用したことでできるようになったこと

オープンディー活動においては、生徒会とオープンディー実行委員会のメンバーが積極的な活動を続け、オンラインならではの創造的な活動を自らの手で企画・実行した。折しも地元 Loxwood 村で粘土の掘り出し計画が持ち上がり、その後は廃棄物埋め立て施設として利用されることも検討されているというニュースが入った。森林破壊、交通量の増加、加えて、立教の位置は廃棄施設から来る西南の風によって、ほこり、におい等の環境問題が発生する可能性があり、本校では生徒会が中心となって地域住民との連携活動を模索し、これを Web オープンディーでも取り上げた。Zoom を通して地元の環境保護団体の方々とミーティングをもつことで、Web オープンディーでの発表もより説得力のあるものとなった。

児童生徒、教師、保護者の反応

<教師>

生徒会活動における児童生徒たちの積極的な ICT 環境利用の様子を見ていると、これがアクティブラーニング、更には「生徒主体の学び」という本校が目指す新しい教育の将来構想に繋がっていくように思われる。